
ドラベースSpecial Edition

ブラスト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラベースSpecial Edition

【Nコード】

N1348BA

【作者名】

ブラスト

【あらすじ】

22世紀、科学が発達し近代的となった未来の国。ネコ型ロボットがこもりとなって、人と一緒に生活したり、秘密道具などの摩訶不思議な物が人々にとっては当たり前となっているそんな時代。

そんな未来の国でも野球は健在。

そしてドラーズと言う名の野球チームが再び、熱い試合を繰り広げる。

ドラベースSpecial Edition キャラ紹介（前書き）

皆様こんにちは！プラストです！！

早速なのですが前にも言いましたが、バトルスピリッツだけでなくもう一つの小説！ドラベースSpecial Editionという小説の二作品を書いていきたいと思えます！

2012年は「バトルスピリッツ激震の勇者」「ドラベースSpecial Edition」の同時進行で2小説を書いて行こうと思つのでぜひよろしく願います。

まだまだ未熟ですが、ぜひ期待してくださいとうれしいです。

ドラベースとは一体何か？そう思う方の中にはいるかもしれませんが、そう言う方のために、後に書くプロローグで詳しく説明していきます。

ドラベースを知ってる方も、そうでない方も楽しめる小説となるよう頑張つて書いていくのでぜひ応援していただくと嬉しい限りです。

ドラベースSpecial Edition キャラ紹介

・江戸川ドラーズ

本作の主人公達。クロえもん、藤本ひろし、パクえもん、ヒヨロえもん、ピヨコえもん、スズえもん、エーモンド、トラえもん、チビえもんの9名で構成されたチーム。様々な大会で記録を残し、有名なチームとなり、クロえもんがチームのキャプテンを務めている。

・ギルえもん

本作オリジナルのキャラクター。頬にある傷跡と腕に付けたリストバンドが特徴的なネコ型ロボット。ストロングビートルズというチームを率いるキャプテン。クロえもん達と同じく野球が大好きで、強者と戦いたいがためにクロえもん達の町に引越す。変化球、速球、魔球も自在に投げられ、得意な変化球はシュートとチェンジアップ。

とりあえずキャラ紹介はこんな感じですが、シロえもんやドラランプなど、ドラベースおなじみのキャラクターや、オリジナルキャラクターなどもまだまだ登場します！ぜひ応援よろしくお願いします！

第1話『その名はギルえもん!』(前書き)

始めました!ドラベースSpecial Edition第1話!
今日から連載していくので、ぜひ見ていただくと嬉しい限りです。

それでは、駄作ながらも第1話ぜひよろしくお願いします。

第1話『その名はギルえもん!』

22世紀。

科学が進み、ネコ型ロボットなど、今現代の21世紀では考えられない光景が広がる未来の国。
そんな未来の国でも、野球は健在している。

ルールも昔と変わっておらず、熱い戦いを繰り広げている。
ただし。

5

”カキインッ!”

『打ったあゝ!これはホームランかあッ!?!』

実況の音が響くある球場、”カキインツ！”という音共にボールは後ろにあるスタンドに入ろうとするが、突如現れた影がグローブでそのボールをキャッチする。

『おおっと！ここで秘密道具タケコプターを使用！ホームランと追われた打球がアウトです！』

21世紀までの野球と違い、22世紀では三つだけ定められた秘密道具が使えるようになりました。

”カキインツ！”

ある広場で響くバツティングの音。

そしてボールは空高く、どこかも分からない場所に飛んでいく。

「ナイスバツティングだぜ、クロ」

そう言いながら、次のボールを構えるメガネの青年、ひろし。

そしてひろしの目の前に居るのは、バットを構え、「クロ」と呼ばれた猫型ロボットとキャッチャーを務める同じくネコ型のパクえもん。

『おい！クロ！！守備練習なのにホームラン打ってどうすんだ！』

バックから聞こえる声、そこにはクロと同じくネコ型ロボットのヒヨロえもん、そして後ろにはトラえもん、ピョコえもん、チビえもん、エーモンド、スズえもんの姿もある。

彼らこそ、数々の強豪たちに勝利し、様々な記録を収めた有名な野球チーム。江戸川ドラーズ。

「悪い悪い、それじゃあしまっていくか！」

「「おおーッ！」「」

クロの言葉と共に、全員構え、そして練習が行われていく。

『俺が有名な江戸川ドラーズ、ねえ』

遠くからその様子を眺める一人のネコ型ロボット。

「よおーし！最後は真剣勝負と行くか！ひろし、頼むぜ！！」

「へっ、簡単には打たせないぜ！」

一通り練習終え、最後にクロとひろしの一騎打ち。
クロは大きくバットを振り、そして構える。

そして”プレイ”という合図とともに、ひろしは大きく振りかぶり、そして勢いのある豪速球をキャッチャーのミットに向かって、真っ直ぐ投げつける。

「行くぜ！満月大根打ち！！」

クロは大きく飛び上がると共に、両手で握りしめたバットを縦に振り下ろし、それはボールを捕え、”カキンッ！”という音と共にボールは空高く上がっていく。

「へっへ！ホームランだぜえ！」

全員クロの打った打球を見上げる。

だが、次の瞬間、空高く上がっていくボールの前に突如、別のボールが現れ、そして激突し、互いに相殺されたボールは勢いを失くし、そして地面に落ちていく。

「「!？」」

ボールは二つとも、真っ直ぐ下に向かつて落ちていき、落ちる先に居たネコ型ロボットは左腕と右腕に付けたグローブを前に突き出し、落ちてくるボールが二つとも、そのネコ型のグローブに収まり、その光景を見ていたドラーズの全員、驚きを隠せなかった。

『やあ、江戸川ドラーズ。練習、見させてもらってるぜ』

「誰だお前は？」

「俺かい？俺もアンタらと同じ野球をやってるネコ型ロボット、名はギルえもん」

「ギルえもん？」

「んな事より……」

ギルえもんとは名乗るネコ型は二つの内、一つのボールを取り、それを投げ、それはひろしのグローブに収まる。

「試合、やるんぜ」

「はあ！？」

それは突然の事だった。

第1話『その名はギルえもん!』（後書き）

いかがでしたか？第1話！

始まり早々駄目駄目作品で、恥ずかしいです（泣）

もっと上達しなくては……。

今回は短めでしたが、次回以降からもう少し長く書いて行こうと思
っています。

第2話はいつ公開できるか分からないのですが、見守っていただけ
たら嬉しい限りです。

今後ともよろしく願います！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1348ba/>

ドラベースSpecial Edition

2012年1月6日15時48分発行